

# 音楽療法的意図をもったクラスの活動事例(3歳児)

～「おまめくらぶ」と過ごした1年間～

中村 美緒 (久良岐保育園)

## はじめに

本園では、月に1回「音楽療法的指導」を行なっている。音楽療法士である講師を招いて音楽療法的活動を行なっている。各クラスの課題や困っていることを事前に講師と担任とで話し合い、音楽を使った活動を通して、日常生活に還元しようというものである。

平成28年度年少3歳児クラスでは、「おまめくらぶ」というテーマをもとに1年間生活をしてきた。テーマ設定については、

- 1) 食に対して興味を持つきっかけになってほしい、その実体験として本物の豆に触れる経験をしてほしい。
- 2) 絵本『そらまめくんのベッド』の世界に楽しみ、友達との関わりを深めてほしい、イメージをふくらませ絵本の世界を楽しんでほしいというねらいを留意した。

今回は「おまめくらぶ」の中に育っている音楽療法の考え方、平成28年度のクラスの取り組みについて報告していきたい。

## 研究の方法

平成28年度4月～12月の9回(1回30分程度)の音楽療法的指導について、講師と担任、主任でクラスの問題点、活動内容、その日の子どもの様子や変容、今後の課題について検討する。

それと共に、クラスでの活動を踏まえて振り返りを行なう。

クラス概要 (3歳児クラス)

男児12名 女児12名 計24名

## 音楽療法の考え方とは

目の前の子どもやクラスの問題行動や改善したい点について音楽を用いた活動を通して日常生活に還元しようというもの。

## 結果と考察

4月から12月までの9回の活動を通し、講師が音楽を切り口とした活動を受け、音楽療法の考え方を担任としてどのように日常の活動に落とし込み子どもの心に響く働きかけをしてきたのか、そのことによる子どもの変容は次の通りである。

《おまめくらぶの活動例》

### 1) 豆類の栽培

枝豆、さやえんどう、そらまめ、ピーナッツ、あずきの種や苗をプランターにまき育てた。生長の観察はもちろん、子どもたちは草むしり、水やり活動や収穫も体験した。

### 2) 豆おにぎりクッキング

毎月、誕生会の日の給食として、その時期の旬の豆を使ったおにぎりクッキングをクラス独自

で行なった。豆の下ごしらえ、ラップで包んで握るなどのひと通りの行程を子どもたち自身が経験するとともに給食の主食として味わった。

### 3) そらまめくん ごっこ遊び

絵本『そらまめくんのベッド』シリーズを担当が読み聞かせ、ストーリーに親しんできた。絵本に登場する豆の名前をクラスのグループ名に取り入れて毎日生活をした。自由遊びの中で子ども達同士で役割を決め、そらまめくんのごっこ遊びが盛んになった。

《活動を受けて子どもたちの変化》

### 1) 相手に対する思いやりの気持ちの育ち

実際に本物の豆に触れ、生長する豆の様子を見て、不思議がりながら世話をしていた。豆を育てる中で、命があること、生きているものを大切にすることを経験として理解した子どもが多かった。そのことは、相手(物)に対して思いやりの気持ちを持つということにつながったのではないか。

### 2) 感謝の気持ちをもつ育ち

食べ物には旬があることを知り、自分で手を加えたものをいただく喜び、おいしさ、また作ってくれる人への感謝の気持ちを持つ子が増えた。また、以前は苦手だったグリーンピースやあずき等の豆を自分でクッキングすることによって、食べられるようになった子もいた。毎月の豆おにぎりを心待ちに登園し、早く食べたいと口にするなどの姿もあった。このことは食に対して興味を持つきっかけになったのではないか。

### 3) 友達と一緒に遊ぶ楽しさ

絵本に出てくるセリフの言い回しや場面などを真似て、友達数名とごっこ遊びを楽しんでいた。その中で、役割や順番を巡ってトラブルになることもあるが、相手(友達)にも気持ちがあることや、自分本位ではうまくいかないこともあることを経験として学んでいる。いくらトラブルになっても、友達と一緒に遊ぶ楽しさ、おもしろさの方が強い様子である。

## 今後の課題

保育士となって10年間音楽療法的活動に関わってきた。その間を通じ、音楽療法の考え方を担任自身が学び、積み重ねてきたからこそ、今回のようなテーマの中に落とし込むことができたのではないか。だが、子ども達の変容はまだ発展途中であり、これからの担任の気づきや働きかけ次第で良くも悪くも変化する。今後は「おまめくらぶ」として1年を過ごす中で芽生えた、相手や物を思いやる心、感謝する心、が自然に生まれ育っていく環境を作っていくことが望ましい。

参考文献:

なかやみわ『そらまめくんのベッド』小学館

**音楽療法的意図をもったクラスの活動事例(3歳児)**  
**～「おまめくらぶ」と過ごした1年間～**

**久良岐保育園 中村 美緒**

# はじめに

本園では、月に1回「音楽療法的指導」を行なっている。音楽療法士である講師を招いて音楽療法的活動を行なっている。各クラスの課題や困っていることを事前に講師と担任とで話し合い、音楽を使った活動を通して、日常生活に還元しようというものである。

平成28年度年少3歳児クラスでは、「おまめくらぶ」というテーマをもとに1年間生活をしてきた。テーマ設定については、

- 1) 食に対して興味を持つきっかけになってほしい、その実体験として本物の豆に触れる経験をしてほしい。

2) 絵本「そらまめくんのベッド」の世界に楽しみ、友達との関わりを深めてほしい、イメージをふくらませ絵本の世界を楽しんでほしいというねらいを留意した。

今回は「おまめくらぶ」の中に育っている音楽療法の考え方、平成28年度のクラスの取り組みについて報告していきたい。

## 研究の方法



平成28年度4月～12月の9回（1回30分程度）の音楽療法的

指導について、講師と担任、主任でクラスの問題点、活動内容、その日の子どもの様子や変容、今後の課題について検討する。それと共に、クラスでの活動を踏まえて振り返りを行なう。

クラス概要 (3歳児クラス)

男児 12名      女児 12名      計 24名



## 音楽療法の考え方とは

目の前の子どもやクラスの問題行動や改善したい点について音楽を用いた活動を通して日常生活に還元しようというもの。

絵本に出てくる  
「そらまめくんのベッド」を  
製作してみよう～！！  
えのぐで色づけ。中には綿を  
入れて ふわふわに♪





# 結果と考察

4月から12月までの9回の活動を通し、講師が音楽を切り口とした活動を受け、音楽療法の考え方を担任としてどのように日常の活動に落とし込み子どもの心に響く働きかけをしてきたのか、そのことによる子どもの変容は次の通りである。

## 《おまめくらぶの活動例》

### 1) 豆類の栽培

枝豆、さやえんどう、そらまめ、ピーナッツ、あずきの種や苗をプランターにまき育てた。生長の観察はもちろん、子どもたちは草むしり、水やり活動や収穫も体験した。





春にはプランターに おまめの

苗や種を植えました。

毎日のみずやり、「大きくな〜れ」

の魔法の言葉を忘れずに♪



じぶんたちで育てて  
収穫した大豆と  
あずき！！「ほんものだ〜  
かわいい〜」とにんまり  
していました！



## 2) 豆おにぎりクッキング

毎月、誕生会の日のご給食として、その時期の旬の豆を使ったおにぎりクッキングをクラス独自で行なった。豆の下ごしらえ、ラップで包んで握るなどのひと通りの行程を子どもたち自身が経験するとともに給食の主食として味わった。

## 3) そらまめくん ごっこ遊び

絵本『そらまめくんのベッド』シリーズを担当が読み聞かせ、ストーリーに親しんできた。絵本に登場する豆の名前をクラスのグループ名に取り入れて毎日生活をした。自由遊びの中で子ども達同士で役割を決め、そらまめくんのごっこ遊びが盛んになった。





夏は枝豆！！秋は大豆！！  
冬はあずき！！などなど旬の  
おまめとごはんでおにぎりに♪  
自分たちで握ると、いつもより  
おいしい気がするんですよね！



そらまめの皮って  
本当にふわふわなんだね。  
知らなかった！！本当に  
触れてみて、わかることも  
多いね～！！



## 《活動を受けて子どもたちの変化》

### 1) 相手に対する思いやりの気持ちの育ち

実際に本物の豆に触れ、生長する豆の様子を見て、不思議がりながら世話をしていた。豆を育てる中で、命があること、生きているものを大切にすることを経験として理解した子どもが多かった。そのことは、相手（物）に対して思いやりの気持ちを持つということにつながったのではないか。

### 2) 感謝の気持ちをもつ育ち

食べ物には旬があることを知り、自分で手を加えたものをいただく喜び、おいしさ、また作ってくれる人への感謝の気持ちを持つ子が増えた。また、以前は苦手だったグリーンピースやあずき等の豆を自分でクッキングすることによって、食べられるようになった子もいた。毎月の豆おにぎりを心待ちに登園し、早く食べた

いと口にするなどの姿もあった。このことは食に対して興味を持つきっかけになったのではないか。

### 3) 友達と一緒に遊ぶ楽しさ

絵本に出てくるセリフの言い回しや場面などを真似て、友達数名とごっこ遊びを楽しんでいた。その中で、役割や順番を巡ってトラブルになることもあるが、相手（友達）にも気持ちがあることや、自分本位ではうまくいかないこともあることを経験として学んでいる。いくらトラブルになっても、友達と一緒に遊ぶ楽しさ、おもしろさの方が強い様子である。

そらまめくん人形の  
存在もなくてはならない  
ものに♪いつでも一緒に♪  
優しく抱っこがお約束！





「そらまめくんのベッド」の  
劇ごっこ。おめんをつけて  
セリフを言うよ！ちょっとドキドキする  
けれど、お友達と一緒になら  
頑張れるんだ～！！



1年間、くり返し、絵本を  
読みこんできた子どもたち。  
ストーリーも、セリフも自然と  
覚えているんです。



# 今後の課題

保育士となって10年間音楽療法的活動に関わってきた。その間を通じ、音楽療法の考え方を担任自身が学び、積み重ねてきたからこそ、今回のようなテーマの中に落とし込むことができたのではないか。だが、子ども達の変容はまだ発展途中であり、これからの担任の気づきや働きかけ次第で良くも悪くも変化する。今後は「おまめくらぶ」として1年を過ごす中で芽生えた、相手や物を思いやる心、感謝する心、が自然に生まれ育っていく環境を作っていくことが望ましい。

参考文献：

なかやみわ『そらまめくんのベッド』小学館

